

Family Practice

2008;25(4):237-44

Predictive value of self-reported patient information for the identification of lumbar spinal stenosis.

Sugioka T, Hayashino Y, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S.

腰部脊柱管狭窄症スクリーニング用の自己記入式調査票を開発しその予測精度を検討した。対象者469名に対して症状の性状や姿勢・状況との関連、既往歴等を質問票にて尋ね、回答内容と脊柱管狭窄症かどうかに関連する項目を選別し次の7項目が残った(1年齢、2症状の持続期間、姿勢と症状との関連(3前屈み、4後ろ反り、5立位持続)、6間欠性跛行、7尿漏れ)。各項目のスコア合計の低い順に四分位で分けたところ、低スコア群の層別尤度比は 0.154 となり特に脊柱管狭窄症の除外に有用であると考えられた。また、識別力は ROC 曲線下面積が 67%であった。